

第17回 あらかわ俳壇

投句数	350句(一般の部336句/小中学生の部14句)
投句者数	66人(一般の部59人/小中学生の部7人)
兼題	日永、葉桜、短夜、当季雑詠
選者	佐々木忠利氏(荒川区俳句連盟会長)
期間	令和2年4月1日(水曜)から6月30日(火曜)

一般の部	特選	草矢打つ敵に西部の勇者欲し	竹野美恵子さん
	選評	芒(すすぎ)、蘆(あし)、茅等の太い葉を矢の様に裂き指に挟んで飛ばず遊び。友達を敵に見立て競い合っているが、なんの反応もない敵方に西部の勇者の様なガンマンが欲しい。互いに張り合えば遊びにも熱が入るもの。西部の勇者を感覚的に捉え生彩を得ている。	
	入選	裂織の帯を丸める短夜かな	田中礼子さん
		葉桜や試歩に馴染みのできて来し	安西信之さん
		さよならを言い出し難き日永かな	山内晃さん
短夜や開きつばなしの旅ガイド		若林清子さん	
		紫陽花や雨招き入る躍り口	若林由美子さん

小中学生の部	特選	あじさいの色とりどりのがっしょうだん	第四峡田小学校3年・井上慧一さん
	選評	紫陽花は、色彩の種類が豊かで色が濃く、淡いものと幅広くあり、色が青から赤紫へ変化することから、七変化とも言う。その豊富な色合いのとおりを合唱団と見て取った感性の素晴らしさと詩情に生き生き感が伺える句。	
	入選	葉桜に太陽キラキラいい天気	第二峡田小学校2年・辻萌叶さん
		見上げるとわか葉と青空はんぶんこ	第四峡田小学校3年・井上慧一さん
		五月晴れ思いをのせてインパルス	第三瑞光小学校3年・川口颯土さん
お手紙に桜のおし花つめこんだ		南千住第二中学校1年・大内柚葵さん	
		桜咲く外にいけないオンライン	南千住第二中学校1年・土屋かのんさん

第18回 あらかわ俳壇

投句数	709句(一般の部636句/小中学生の部73句)
投句者数	142人(一般の部89人/小中学生の部53人)
兼題	プール、百合、霧、当季雑詠
選者	対馬康子氏(現代俳句協会副会長)
期間	令和2年7月1日(水曜)から9月30日(水曜)

一般の部	特選	実家発つ木犀の香を吸いきつて	夜行さん
	選評	「木犀の香を吸いきつて」ということに、何か決意のようなものが伝わります。それは少しさみしい決意かもしれませんが。門の側の小さい頃から親しんだ金木犀の甘い香りが、作者にとって実家の存在を象徴しています。	
	入選	丁寧な針目解くや古浴衣	山崎公子さん
		独り猿みて鬼百合の夜の匂ひ	渡辺長二さん
		霧の奥一角獣の草踏む音	石川夏山さん
使い捨てライター切れる湖に霧		近江薫花さん	
		漫才の御大逝けり嗚呼餞暑	茶糸好さん

小中学生の部	特選	グローブのあみからにげだすバツタかな	第四峡田小学校3年・井上慧一さん
	選評	つかまえたバツタが、グローブの網目からぴょんと逃げてしまった。野球の練習が終わった後でしょう、汗がしみたグローブ、草の匂い、緑のバツタの動きが目には浮かびます。バツタも広い世界に生きているんですね。	
	入選	あきの夜にくもがバクリと月たべた	第二峡田小学校2年・佐藤信希さん
		かぶとむしぼくのねぐせとにているよ	第二峡田小学校1年・志田健さん
		なつのかわしぶきまぶしいぼうるなげ	第二峡田小学校1年・藤原美弥さん
大勢のせみが集まり曲になる		南千住第二中学校1年・土屋かのんさん	

第19回 あらかわ俳壇

投句数	395句(一般の部371句／小中学生の部24句)
投句者数	130人(一般の部120人／小中学生の部10人)
兼題	柿、時雨、日向ぼこ、当季雑詠
選者	佐々木忠利氏(荒川区俳句連盟会長)
期間	令和2年10月1日(木曜)から12月31日(木曜)

一般の部	特選	魔女の呪文解け冬霧の街動く	大竹英子さん
	選評	魔女の呪文一覧表によると、動きよ、止まれ、道を開け、消えよ等々があるという。やっとの思いで呪文を解いた後、冬霧がいつしか消え元の活気ある街が動き出した。豊かに想像性を高め面白みと夢があり、無理のない描写にまとめている。	
	入選	旧姓を捨てた故郷赤のまま	鈴木真理子さん
		頬杖の窓に簗村時雨	田中礼子さん
		指十本泳がせ洗ふ木の葉髪	野村祥子さん
柿紅葉今年の庭に母立たず		本間宗一さん	
※同一の先行句があったため、1句の入選を取り消しました。			

小中学生の部	特選	かかしさん畑をまもるけいさつに	第六瑞光小学校3年・羽佐田依吹さん
	選評	かかしは、竹や藁で作った人形。蓑や笠をつけて畑に立てて、人間に見せかけて鳥などが作物を荒らさないように防いでいます。警察は国民を犯罪や事故から守る大事な仕事です。良く考えて同じような役割を果たしている事に気づきましたね。	
	入選	日向ぼこコロナでできず家の中	汐入小学校4年・佐藤壮馬さん
		なべかこみお肉とりあいゆずの味	第二峡田小学校4年・吉賀燦さん
		かきのきのさいごのいっこだれがとる	第四峡田小学校3年・井上慧一さん
かきの木は食べれぬけれどみはおいし		第九峡田小学校2年・稲垣奈名子さん	
今年ね手が届いたよ柿の実に	千代田区立昌平小学校6年・土門大誠さん		

第20回 あらかわ俳壇

投句数	599句(一般の部561句／小中学生の部38句)
投句者数	151人(一般の部126人／小中学生の部25人)
兼題	羽子板、土筆、春の雪、当季雑詠
選者	対馬康子氏(現代俳句協会副会長)
期間	令和3年1月1日(金曜)から3月31日(水曜)

一般の部	特選	該当なし ※同一の先行句があったため、入選を取り消しました。	—
	入選	羽子板や瞳の中に蔵の闇	吉野敬子さん
		引鴨の湖渺渺と陣ひとつ	安田蝸牛さん
		春ひかりは耳のらせんに閉ぢこめる	南方日午さん
		花おぼろ仮面の君を見失ふ	ぐさん
太陽と同じ高さの土筆摘む	花瀬玲さん		

小中学生の部	特選	うまれたときはるのゆきがふっていた	北区立滝野川第四小学校1年・鈴木冴歩さん
	選評	一人の人間としてこの世に生を受けるということは奇跡です。とても素敵な日に生れたのですね。ひらがなで書いた一字一字が遠い雪のかけらのよう。天から降るふわふわと真白い雪が新しい命を静かに祝福しています。	
	入選	つくしさん草にかくれてかくれんぼ	峡田小学校3年・山口桜典さん
		冬の月いくないかと泣く夜に	第四峡田小学校3年・井上慧一さん
		土筆のこきれいなダンスおどりだす	北区立滝野川第五小学校1年・金古奈那香さん
羽子板や品よくわらう女の子		江戸川区立小松川第二小学校3年・中川円さん	